

クリスマスツリー

杉江咲良

ある雪の日に

クリスマスツリーは蹴り飛ばされた

壁に打ちつけられたツリーは倒れこむことも叶わず、  
静かにもたれかかっている

その先に

確かに私は見たのだ

獣がばりばり皮の面を突き破って出てきた憤怒の顔を  
狼人間へと今にも変身しそうにいかった姿かたちを  
物静かな父と思いやりにあふれる母が  
何ものかに変貌する様を

しかし 誰も気づきやしないのだ

窓の外の雪が一切の音を吸収してしまったから  
遠吠えはむなしく溶け落ちた

蹴り飛ばされたクリスマスツリーは

たとえ元どおりに置きなおされたとしても  
決して元には戻らない

何事もなかったように毎年現れるクリスマスツリーは  
明るい光に照らされて  
不気味な影をつくってる